

令和4年10月31日
(2022年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田第二小学校
校長 清水 厚彦

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語 全体として正答率は、全国値を下回っています。

「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域は全国値をやや下回っています。「書くこと」の領域においては全国値を下回っています。

<国語における課題点>

正答率が全国的にも低く、本校もあわせて低いのが、「書くこと」の領域です。誤答の傾向としては、問題に設けられた「条件に合わせて書きましょう。」の条件を満たした解答になっておらず、日頃よりこのような問題場面を意識的に多く取り入れて書くことが必要と感じます。

●算数 全体として正答率は、全国値を下回っています。

各領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」で全国値と比べて下回っている問題が多くあります。

<算数における課題点>

各領域、全国値を上回っている問題もあり、記述式の問題も全国を少し上回る値のものもありますが、全国的に正答率が低いものは、本校も同様に低い傾向にあります。特に、日常生活場面を想定した概数や割合の問題、また「図形」の領域では具体的に作図を想定した問題に課題が見られます。

●理科 全体として正答率は、全国値を下回っています。

「エネルギー・・・今回は日光の問題」「生命・・・今回は昆虫の問題」「地球・・・今回は気温の変化の問題」の領域は全国値を下回っています。「粒子・・・今回は水の実験の問題」の領域は全国値をやや上回って

ます。

<理科における課題点>

理科では記述式の問題の正答率が全国的にも低く、本校も同様に低いです。自然の現象から得た情報や実験の結果を分析する中で、自分の考えを持ち、その内容を記述することに課題が見られます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【自分自身のことについて】

ほとんどの質問において、肯定的な回答の割合が全国値を上回っています。

例えば「自分によいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は肯定的な回答が全国値をやや上回っています。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」「学校に行くのは楽しいと思いますか」は肯定的な回答が全国値を上回っています。ただ「将来の夢や目標を持っていますか」は昨年同様に肯定的な回答が全国値をやや下回っています。

【生活の様子】

全国値と大きな差があった項目を紹介します。

「普段(月～金)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(携帯・スマートフォン使ったゲーム含む)をしますか。」で、「3時間以上する」の回答率が全国値より上回っています。要するに、3時間以上する児童が全国と比べて多くいるということになります。続いて「1日あたりのSNSや動画視聴の時間」も「2時間以上する」の回答率が全国値より上回っています。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」は、肯定的回答率が100%となり、一昨年度から始めている「いじめ予防授業」の効果も出ていると思います。「アンバランスパワー」「シンキングエラー」「HERO」の言葉について、お子さんに聞いてみてください。同様に「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の項目も肯定的回答率が100%です。

【家庭学習について】

家庭学習の時間については個人差があり、全国値と本校で共通していることは「学校の授業時間外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」は、「1時間以上、2時間より少ない」の回答率が一番多く、「土曜日や日曜日の時の1日当たりの勉強時間」は、「1時間より少ない」の回答率が一番多い状況です。また、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」という質問に対しては、30分以上の回答でみると全国値とほぼ同じで、前回の調査と同様に、進んで読書をしている子どもがいる一方で、あまり読まない子も一定数おり、二極化傾向が見られます。



【教科の学習について】

国語

「国語の勉強は好きですか」「大切だと思いますか」「授業の内容はよく分かりますか」は肯定的な回答が全国値を上回っています。「将来役に立つと思いますか」は肯定的な回答が全国値をやや上回っています。

算数

「算数の勉強は好きですか」は肯定的な回答が全国値を上回っています。「大切だと思いますか」「授業の内容はよく分かりますか」「将来役に立つと思いますか」は肯定的な回答が全国値をやや上回っています。しかし、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問も肯定的な回答は全国値をやや上回っているものの、肯定的回答率が70%程度にとどまっています。

理科

「理科の勉強は好きですか」「授業の内容はよく分かりますか」は肯定的な回答が全国値を下回っています。「大切だと思いますか」「結果から分かったことを考える」は肯定的な回答が全国値をやや上回っています。「将来役に立つと思いますか」「実験の計画を立てる」「振り返る」の質問は肯定的な回答が全国値を上回っています。

3 今後の取り組み ～教科に関する結果を踏まえて～

国語

- 今回の「書くこと」の問題においては、ただ書くという作業ではなく、例えば、ある課題に対して自分の立場を明確にしながらか話し合い活動に参加し、友達の考えも受け入れながら自らの考えを深めていく中で、書く力を育てていくことが大切です。メモをとったり、自分の考えを書いてまとめたりといった活動を意識的に取り入れたり、学習後の自身の学びの振り返りをしっかりと書くことも大切になってきます。児童質問紙の「国語」や「その他」の項目で肯定的な回答率が全国値より高いことから、子どもが意欲をもって主体的に学んできたある一定の成果は出ているという見方もできますが、今後も子どもたちが主体的に取り組む活動を計画的に取り入れ、自力で文章を読み解く力をつけていくとともに、得た知識を活用して発信していく力を育てていきます。

算数

- 教科書の中で算数の学習が終始するのではなく、日常生活の様々な場面で数学的な見方を意識し、目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにしていくことが大切です。そのためにも身近な教材を工夫し提示することや、日常生活や社会の事象をもとにして活用・意味づける機会を積極的に設けることを大切に学習活動を行っていきます。

理科

□ 理科は実験や観察が多く、個々が実験器具を取り扱う経験が大切です。今回の問題の中で実験器具の取り扱い方などを問う項目は全国値を上回っており、体験を大切にした授業の成果は出ていると考えられます。一方、その実験や観察は何のためにするのか目的意識をしっかりとって行うことで、その後の結果や分析、解釈により生かされます。そのためにも、例えば結果から児童同士が話し合う活動が大切なのはもちろんのこと、そこから自分や友達の気づきをもとに差異点や共通点をとらえ、新たな問題を見出していくような場面を設定することも大切に組み込んでいきます。

□ 本校では、教科を問わず、自分で課題をみつけ、調べ、表現し、交流して答えを見つける「学び」を大切に日々授業改善に取り組んでおります。また同時に、学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」に向けて、一人一台端末の活用も大切です。児童質問紙の中の「授業での ICT 機器(タブレット)の使用頻度」を問う数項目で、本校は全国値に比べて圧倒的に使用頻度が高く、「学習の中で ICT 機器(タブレット)を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問では肯定的回答率が高い状況です。今後さらに児童が主体的に話し合い、課題解決する機会を増やす授業作りをめざしていきます。

しかし現状として、今回の質問の項目で「解答時間は十分でしたか」については、どの教科も「時間が余った」「ちょうどよかった」の回答率が全国値より低いことが気になりました。本校の児童の実態をうけて、今年度から新たに取り組み始めた研究目標「主体的に読む力を育てる説明文の授業づくり～キーワードをもとに読み取る力をつける～」にも大きく関係することでもあると考えています。「読解力を高めること」に焦点化し、読み取る力をつけていくことは教科を問わず児童の学力を上げていくことに繋がると考えています。

～生活環境や学習習慣等の結果を踏まえて～

□ 本校はここ数年、子どもの自己肯定感や自己有用感を高めていくことを中心に教育活動を進めています。何か大きな行事を一つしたからと言ってすぐに高まるものでもなく、日々の地道な取組が大切になると思っています。自己肯定感や自己有用感は、子どもたちがこの先、小学校を卒業し、大人になってもいろんな場面で物事を判断したり、行動したりするときの大きな力になると信じています。小学校には教職員をはじめ、地域の方々、保護者、友達、自分より年上の子や年下の子がいます。小さな社会ですが、このような人間社会の中で人との信頼関係を築いたりしていく絶好のチャンスの中です。まさに学校は「学びの宝庫」とも言えます。様々な経験ができる場を「チャンス」と思い、いろんなことに「チャレンジ」して行ってほしいです。また、学校は仲間がいて、力を合わせると乗り越えていけることもあると実感できる絶好の場でもあります。そして、活動していく中で、人に褒められたり、認められたりすることで、自己有用感も高まっていきます。失敗してもそこから学べることはあります。「チャレンジ」した先には必ず「チェンジ」があります。よりよい自分になっていきます。

ご家庭におかれましても、子ども自身が主体的に活躍できる役割を家庭の中で与えたり、場を設けたりし、積極的に子どもの行動に目を向け、良さを認めることで自己肯定感や自己有用感を高めていく関わりをしていただいていると思います。今後とも引き続きよろしく申し上げます。